

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100363		
法人名	シルバーハウス株式会社		
事業所名	グループホーム びえいの郷		
所在地	上川郡美瑛町大町2丁目5番14号		
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0173100363-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 3年 3月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

びえいの郷の理念は介護の理念のみならず、職員に対しての理念でもあり、入居者、職員の区別無く「あるがままに一人ひとりの個性を尊重し…共に暮らし、そして支えあう」ことを念頭に置き日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームびえいの郷は静かな住宅地に位置する開設16年目を迎えた平屋建て2ユニットの事業所です。隣接の有料老人ホームとは廊下で繋がりが建物内はユニット間が行き来しやすい明るい造りです。今年度は様々な事が自粛となっていますが、例年、幼稚園児やボランティアの訪問のほか、事業所の誕生祭に地域の方々や家族が訪れ賑わい、併設事業所との交流、敬老の日には住んでいた地区に出向き祝意等を受けるなど、利用者が地域で暮らし続けるための豊かな基盤を整え、外出行事も季節を堪能する内容です。昨今は、誕生会やお楽しみ会、グルメの日などの施設内行事により力を注ぎ、職員アイディア満載の作業療法的要素を盛り込んだ作品作りやゲーム、各種体操など機能低下予防と共に利用者の楽しみ事となっています。入居前にはこだわりが強く生活に支障をきたしていた方が職員との触れ合いにより安定した生活が実現しており、包括的ケアマネジメントを始め、本人のありのままを受け入れ親身になる職員の姿勢や介護力も高く評価できます。職員のチームワーク、本人と共に支え合う家族との関係、職場内研修なども特筆できます。職員は優しい気持ちで接していきたいと述べており、理念が全体のものとなっている事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらい			○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが			○	3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)		1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	びえいの郷の理念である「あるがままの個性を尊重し」「家庭的なもてで支えあい」「地域住民の皆様と協力」を目指し、事業所各所に掲示し、意識を深め職員全体で実践につなげている。	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ理念を標榜しています。パンフレットに明示し、施設内要所へ掲示しています。支援における大切な根幹として意識づけがなされています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナのために地域の方を招いての施設行事お祭りは中止している。地域のイベント開催も控えられており参加できていない。以前は地域の行事イベントには参加していた。	今年度は自粛となっていますが、例年、幼稚園児の訪問や神社祭での神輿との触れ合い、ボランティアの受け入れ、事業所誕生際には地域住民や家族も訪れ賑わっており併設事業所との交流も行っています。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や運営推進会議での情報交換の機会には、入退居の経緯等を報告し認知症の理解に努めていた。現在は会議の開催がオンライン等に変更になり深くは話し合えていない。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのため運営推進会議を2ヶ月に1回開催することが難しくなっているが、サービス状況等の電話での報告も交えて参加協力、意見交換を求めている。	10月はメンバー参集にて会議を開催し、避難訓練の見学後に意見交換を行っています。12月からは書面会議とし、メンバーとの電話連絡や資料送付等で執り行っています。関係者へ議事録を送付しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回町役場主催の地域ケア会議はコロナのため、開催が控えられたりオンラインで開催されている。運営推進会議も含め市町村担当者と相談できる関係は築けている。	役場とは主に通信システム等を用い情報提供や共有を図り、担当振興局へ意見を仰ぐなどもなされています。今年度は自粛ですが町主催の講演会や講習会が年2回開催されており外部研修の機会が確保されています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束につながるケアの確認。スピーチロック等も十分に注意し職員研修、身体拘束廃止委員会を開催している。防犯のため、玄関の施錠をすることはあるが、外へ行きたい希望には速やかに施錠を解除し、ご本人が拘束感ないよう対応している。	身体拘束等の規約を定め、3ヶ月に1度身体拘束廃止委員会を開催しています。また、これらに係る内部研修を年2回実施しています。言葉での拘束・行動抑制・権利擁護、グレーゾーンの検討など多種の学びがなされています。玄関は防犯上の理由により、日中常時施錠する場合がありますが利用者への弊害がないよう対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職場内研修を実施している。各虐待の各種を職員で振り返る機会をつくり注意を払い防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内で権利擁護や成年後見制度に関する研修の機会をつくっている。別ユニットには成年後見制度の利用者も入居されていて法律事務所との連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時にはサービス内容、入院や状態変動時の対応や利用料金の説明を口頭でも解りやすく説明している。個人の事情も聞き柔軟に対応している。入居への不安がある場合は数日間の体験入居を実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者に日常の要望や感想を確認し、毎月お便りでご家族に報告し、協力を得て対応している。玄関に目安箱を設置しているが、利用効果はなく運営、サービスの質の向上に反映されていない。	利用者から家に帰りたいとの要望あった場合は自宅を見に行き、繰り返しの散歩の要望にも可能な範囲で応じるなど心情に配慮した対応を行っています。家族へは毎月の個別便りで本人の様子の通知やアンケートを実施しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、働きやすい労働状況の調整のため管理者から職員の意見を聞き、意見内容に協調性をもって理解を示している。	月1回、全体会議とユニット会議が開催され意見交換の場が仕組みとしても確保されています。職員の身体的負担軽減への対応や提案で柵や手すりが増設されるなど一緒に話し合いながら調整しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の意向、要望を尊重し就業規則等の改定に努め職員の負担が軽減され長く働きやすい労働環境、労働条件の改善、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に職場内研修を行っている。外部研修の参加は少ないが、資格取得の為の講習の案内や費用の負担など説明し、資格取得、更新研修の参加も増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	併設事業所との定期的な交流機会や役場主催の講演会に参加しているが、コロナのため機会は減っている。同業施設との交流関係はあるが、相互訪問等はできていない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時には、その方の生活習慣やこだわりをできる限り職員全体で尊重し、その人らしさが変わらず安心して暮らせるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、ご家族の事情や強く望んでいることを理解し、本人の思いを共に感じ取り対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係者からの情報も踏まえて、利用相談時に適したサービスや必要な協力が受けられるよう相談、調整し、他のサービスも含め情報や選択肢を提供し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の個性を尊重し、家庭的な雰囲気の中で介護においても互いに協調し支えあい、共同生活ができるよう信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ毎月お便りで生活の様子等を伝えている。面会時はご家族にも施設の居住空間を自宅と同じ思いで気兼ねなく過ごして頂き、情報、意見交換をして本人を支える関係を築いていた。(コロナのため現在は面会自粛中)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナのため面会は自粛中であるが、ご家族や馴染みの関係者とは窓越しで電話による面会機会をつくったり関係が途切れないように支援している。行きつけの理髪店の利用や買い物は続けている。	昨今は、家族との電話のやり取りや窓越しでの面会をサポートし、家族からは手紙や好みの菓子、洋服が届くなど馴染みの関係が大切にされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有空間では、趣味や相性がある方同士が隣になるよう配慮し、共同作業やあそびを楽しめ孤立しないよう職員も一緒にやり穏やかに無理なく関わり合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退居になった場合でもご家族の状況を配慮し、必要品の用意など協力したり、他施設に転居になった場合でもそれまでの生活の様子などを関係者に伝えている。コロナのためその後の本人の状態は確認できていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしの中での言動や行動から思いを察し、出来る限り本人が望む姿で暮らせるよう本人のこだわり価値感を尊重している。	利用開始前の自宅訪問が可能な場合ではその場で暮らし方の意向や習慣等を本人と話し確認しており、また家族からも情報を得ています。職員と一緒に生活を共にする中で何が本人の望みであるか関心を払い把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からこれまでの生活習慣等を聞き取り、慣れ親しんだ過ごし方が続けられる環境を失わない支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の心身状況を観察し、日常生活を見守り発揮できる力を見極め支援できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に生活の意向を確認し、職員の意見も反映させ必要なサービスを計画している。本人、家族、職員の意見を聞きモニタリングし、会議の中でその人が負担なく生活ができる介護計画を作成し内容を確認している。	毎月のユニット会議で利用者カンファレンスを行い、経過や目標に加えた方が良い点などを話し合っています。詳細なモニタリングは今後のより良い計画への評価となっており、関係者間の意見等を盛り込み本人本位となる介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録、ご家族通信に記録して職員間、ご家族と情報を共有している。連絡帳や引継ぎ、会議で情報交換しケア方法の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念を持たず、その時々新しい要望に応え本人やご家族の希望が叶えられるよう必要な関係者と連携を図り柔軟に支援できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナのため地域活動への参加はできていないが、施設内の関わりでは一人ひとりが出来る範囲で人のお世話や役割を見つけ楽しく暮らせるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院への定期通院が中心だが状況に応じ専門病院を紹介してもらい通院している。先々の治療の方向性についてもご家族、事業所看護師、主治医と確認し適切な支援に努めている。	町立病院や専門医療機関への通院支援を行っています。歯科との連携では利用者の事例に即した口腔ケアを学び支援に活かしています。職員として看護師を配置し助言を得たり適切な医療支援に繋がっています。家族への報告も通信等、適宜行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の職員として看護師を配置しており、週3回勤務し介護職員と利用者の心身状況の確認をして健康管理している。看護師と管理者が医療機関、ご家族と連携を図り適切な受診ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と連携し、本人の情報を医療機関に提供し治療方法を確認している。入院中の必要品の準備も支援し、医療機関、家族と連携し本人の長期入院の負担を配慮し早めで適切な退院時期の調整をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所で対応できる支援の説明し、終末期の意向を確認しているが、解らないといった回答が多い。疾患の進行により検査等を繰り返す場合は家族と一緒に主治医の説明を聞き、終末期に向けた全体での方針を確認し支援している。	利用契約時に重度化した場合における対応指針を説明し、終末期事前確認書にて意向を確認しています。重度化等が生じた場合は、医療機関の判断を下に関係者間で今後の方針を取り決めていきます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在はコロナのため消防署の協力による年1回、AED、心肺蘇生等、救急救命講習は実施できていないが、職場内研修では年1回急変時の対応に関する研修を行い対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナのため消防署の立ち合いでの年2回の避難訓練は難しく自主訓練の指示があり実施している。非常災害時のマニュアルを整備し、必要品、設備の整備をしているが、地域の方と協力しての地震、水害等を想定した避難訓練はできていない。	令和2年3月は夜間想定、10月に日中想定での火災避難訓練を実施し運営推進会議メンバーのモニターが得られています。非常災害対策計画書を定め、非常災害時マニュアルを整備しています。災害備蓄品では自家発電機の設備に至っています。自然災害での避難場所について精査、協議中です。	町や地域の協力を得て自然災害における避難訓練を実施する意向を示していますのでその実現に期待すると共に、避難先での生活想定も含めた検討を行うなど、災害対策の強化に期待します。

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護、認知症ケアに関する職場内研修を実施し認知症であっても人として当たり前の権利を守り、個人としての人格を尊重してスピーチロック等に注意しながら、その方の誇りを損ねないように努めている。	一人ひとりの権利を保証し人格を尊重する対人援助の基本原則を事業所全体で留意しています。新人職員の利用者への対応を鑑み、初心に振り返り自身の接遇を確認するなどの実際もあります。毎月の職場内研修で学びを深めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般において、混乱のない範囲で日課や何か決める際は解りやすい選択肢を用意し問いかけるようにして主導的に希望が伝えられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日々の中で一人ひとりの性格やその時の気分、体調を配慮し、本人のペースにあわせ相談し日課やスケジュールの変更を行っている。変更が難しい場合は説明し納得されている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナのため必要品の買い物は一緒に行けていないが、希望に沿って支援している。行きつけの美容院へ行く方もいるが事業所での理美容の機会もあり支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の食事形態を調整し、片付けの一部を協力している。外食はできていないが、出前食や行事食を作る機会があり、みんなで楽しく協力して調理して囲んで食べることがある。	法人調理師による献立で提供され、季節の行事食や誕生日メニューもあります。外食の代わりに寿司セットのデリバリーやジンギスカン、ラーメン、鍋などの他、パフェやホットケーキなどのおやつ作りも利用者と一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日チェックし、咀嚼、嚥下動作や嗜好に問題がなく適量を摂取を守っている。疾患への影響や体重の変動も観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士を招いての口腔ケア講習会はできていないが、毎食後口腔ケアを実施し口腔内の異常は早期発見し専門医の受診を心掛けている。食事前にゴックン体操を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の見守り、声掛け誘導により排泄チェックし個々の排泄間隔の把握に努め、トイレでの排泄機会を確保し残尿などなく快適に過ごせるよう支援している。夜間は安眠できるようにシビンやポータブルトイレなど使い分けしている。	利用者一人ひとりの間隔やタイミング、尿意等のある無し、身体状況に応じ医療機関の指示も得ながら個別の排泄支援を行っています。排泄用品類の使い分けや本人の負担感、安眠へも配慮して支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳と朝食時にヨーグルトの摂取を促し、1日の水分量をチェックしている。便秘時は下剤の調整をしながら看護師が対応している。本人の希望が薬や食べ物の調整をされている方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決まっているが、時間帯などは本人の希望に沿って負担なくゆっくり入浴できるよう支援している。	利用者1人が最低週に2回入浴ができており、入浴が好きな方も多く、個々のタイミングも見計らいながら誘導しています。入浴に係る脱衣から着衣までの一連の流れも本人の負担感に配慮し対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は共有スペースでも個人の空間として一人掛けソファでうたた寝されたり、ベッドでの休養を支援してる。昼夜逆転の予防のため、体操や活動機会をつくっている。就寝時間は個々のタイミングを見極め眠って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時に薬の変更がある場合は医師からの説明を受診記録等で情報を共有している。一人ひとりの処方薬表で処方薬の内容を確認している。主治医の許可を得て馴染みの市販薬を使用している方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	頻繁ではないが、本人の気分に合わせ誘い掛け体操、ゲーム、作品づくり、手伝いなどその方にあった興味を持って力を発揮できる機会をつくり、気分転換や刺激に繋げられるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのため外出は自粛しているが、少人数での季節を感じられるドライブや個人での簡単な買い物などは機会をつくっている。自宅へ行きたい希望は何度か叶うと希望がなくなる。コロナが落ち着いたら外出を楽しみにされている。	自粛以前は花見や紅葉狩り、白鳥の観察や東川町の氷祭りなど四季や風景を味わう外出を多く取り入れ、スーパーでの買い物や温泉、町民センターなどへも気軽に出かけていました。昨今は、季節の良い時期の日課の散歩は元より、ドライブやコンビニエンスストアでの買い物、納涼花火大会を催し外気に触れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に預かり金管理規定を説明し、金庫で預かり本人希望時、必要時に使用することを家族と話し合っている。本人が金銭管理に興味がある場合は、混乱ない範囲で所持されている。買い物希望される方の代行支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は面会での交流を呼びかけていたが、現在はコロナのため、手紙や贈り物を受ける機会が増えている。電話での情報交換の機会もあり家族との関係が途切れないよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に作品や飾りで明るい雰囲気の空間をつくり、温度、室温チェックで不快感なく過ごせるよう調整している。建物の間取りも見渡し良く各スペースへの移動も混乱なくスムーズにされている。	開放的なガラス張りの玄関を挟み両ユニットが行き来しやすい造りで、共用空間も明るくダイニングやソファの配置もユニット毎に工夫しています。エアコン等で温湿度を調整し快適性に配慮しています。季節の飾り付けや行事の写真を掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では食事席の他に希望にあわせ半数以上の方が一人掛けソファを使用され、一人ひとりの居場所が確保されている。気の合う利用者同士を見極め座席の変更など配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の感性で思いのままに使用して頂き、安全面も配慮し使用具や必要品の配置を調整している。飾りなどで生活感を出し、本人の使いやすさ見守っている。	居室には介護用ベッド、蓄熱暖房機、照明が備え付けられ、馴染みの家具や電化製品、調度品が持ち込まれています。状態に応じて家具の配置や設えを変えて移動しやすいようにしたり、その人らしい部屋となるようサポートしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっており中心部のキッチンから全体を見渡せるため日常的に本人の要望を聞き取れスムーズ過ごされている。自由に安全に移動できるように使用具や物の配置を工夫している。		